

## リード芦屋新聞

発行元

リードあしや

記事  
谷村京美写真  
吉原大翔

## 繋がって支えていく

## 芦屋市地域福祉課長 岩本和加子さん

芦屋市子ども福祉部福祉室 地域福祉課長の岩本和加子さんにインタビューをした。

芦屋市には、地域福祉課以外にも福祉関連の課が多く存在する。その中で、地域福祉課は芦屋市全体の「福祉のまちづくり」に市民が関わっていけるようにするための体制づくりを担っている。どうすれば行政からのサポートだけでなく、地域の人同士が支え合って生活していけるかを考えていくのだそう。そのために「地域福祉計画」を作成して推進している。それだけでなく、色々な人から



の相談を聞き、社会と繋がるための支援をしていく仕組みも作る。

どのようにして地域課題を見つけ、解決しているのか。岩本さんは「私たち行政だけでなく、民生委員さんなどの力も借りていま

す。芦屋市には民生委員が100名ほどいて、ボランティアとして地域のために活動をされています。地域住民の相談を聞き、関係機関を紹介する、行政と市民の繋ぎ役としての役割があります。また、さまざまな相談窓口に寄せられた相談や意見をもとに地域課題を探っていくこともあります。どちらも地域課題解決のための重要な存在です」と繋がり大切さを話した。

## 連携して多方向から 市民のより良い暮らしのために



地域福祉課以外にも、民間の機関で地域福祉に関係する仕事をしているところがたくさんある。そのような団体と連携して活動をすることも多い。

岩本さんは例として、呉川町にある芦屋市保健福祉センター内の芦屋市社会福祉協議会を挙げた。行政と民間団体との間で連携し、役割を分担して福祉を成り立たせていくことがとても大切だそうだ。

岩本さんは「市民の方がより良い生活を送れるようにするために、どのようなことを求めているのか、様々な方向から情報を集めて応えていきたいです」と話し、続けて「私たち地域福祉課は、芦屋市の実情に合った、みなさんが暮らしやすいまちをつくるにはどうすればいいのかを常に考えていく必要があると思います」と力を込めた。